

～昭和30年代の上尾～

昭和33年7月15日に市制施行した上尾市は、ことし市制施行60周年を迎えました。平成30年4月号から平成31年3月号までの上尾歴史散歩は、昭和30年代当時の広報誌『上尾自治だより』から、当時の出来事やその背景などを探ります。

上尾高校の誕生

昭和30（1955）年1月1日に6カ町村が合併して誕生した上尾町は、人口3万人を超える町となり、五つの大工場を中心として「工業の町」へと歩み始めた。しかし、学校教育の面では、町内に高等学校がなく、県立浦和高校の上尾分校（定時制）があるだけであった。そのため、高等学校の設置は町民の長年の希望であった。しかし、当時はまだ必ずしも県立による設置が一般的ではなく、高等学校の設置・維持には地元の負担も求められた。そのため、近隣自治体との共同設置が検討された。

その結果、桶川町・伊奈村と



写真1 上尾商業高校の校舎落成を伝える『上尾自治だより』第42号

2町1村の共同組合立として設置すること、校名は「上尾商業高等学校」とすること、設置場所は上尾町沖ノ上（現在の浅間台）とし、敷地は上尾町が無償提供することなどが決まった。昭和32（1957）年11月5日、臨時の町議会が開催され、運営主体となる「上尾、桶川、伊奈共立上尾商業高等学校組合」の規約が議決された。

昭和33（1958）年1月30日、全日制課程、男女共学、定員普通課程150人、商業課程300人の「上尾、桶川、伊奈共立上尾商業高等学校」の設立が認可された。2月1日には県教育局社会教育課長補佐の福岡鶴吉が初代校長に任命された。第1回生を迎えた入学式は、同年4月10日に町立上尾中学校の仮校舎で行われ、新校舎完成までその仮校舎を使用することとなった。新校舎の建設は5月に始まり、11月1日に県知事代理や県教育長などを迎えて落成式が行われた（写真1）。その後も、校舎の増築工事や体育館・家庭科室などの建築工事が進められていった（写真2）。また、開校から2

年後の昭和35（1960）年4月1日、運営が組合から県へ移管され、それに伴い「埼玉県立上尾高等学校」に改称した。翌年には定時制普通科が設置され、浦和高校上尾分校は昭和39（1964）年3月に廃校となった。

上尾高校は誕生したばかりの学校でありながら、早くから運動部の活躍が目覚ましかった。野球部は昭和38（1963）年3月に初めて甲子園へ出場し（写真3）、その後も昭和49（1974）年夏、同50年夏、同54年夏、同55年春、同57年春、同59年夏と、春夏通じて計7回甲子園へ出場した。また、女子テニス部、男子体操部も昭和40（1965）年8月にそれぞれ初めて全国大会へ出場し、その後も男女体操部や陸上部、テニス部、バドミントン部、軟式庭球部などが全国大会や国民体育大会へ出場した（『埼玉県立上尾高等学校創立50周年記念誌』から）。こうした上尾高校の運動部の活躍が、「上尾（あげお）」の名前を全国に広めたのである。

（上尾市歴史民俗研究会）



写真3 甲子園初出場時の壮行会



写真2 空から見た上尾高校(左)とその周辺